

孫の手通信



第26号

平成24年10月12日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

9月議会開かれる

9月18日に開かれた第3回一宮町議会定例会は、補正予算ほかすべての議案を可決し、閉会しました。議決された主な議案をお知らせします。

24年度一般会計（第4次）補正予算

○上総一ノ宮駅東口開設基本計画作成業務委託費

（367.5万円）

一日も早い駅東口開設に向けてJR千葉支社との正式協議の資料とするため、駅構内の跨線橋（こせんきょう）を東口広場まで延伸し、東口を開設する設備形態、概算工事費等の基本計画を作成します。

平成24年度は基本計画を作成し、平成25年度はJR千葉支社と協議を進め、協議が整い次第、設計・施工の準備に入ります。

○一宮町東部土地改良区事務所新築工事補助金（500万円）

一宮海岸管理条例の制定

海岸の管理権限を千葉県から一宮町に移す一宮海岸管理条例が新たに制定され、今まで県が行っていた一宮海岸の管理は、10月1日から一宮町が行うことになりました。

これにより、海の家のお泊り申請書やサーフィン大会な

どの砂浜を使用する場合の砂地使用届の提出先が長生土木事務所から一宮町役場になるため、町民の利便性が向上します。千葉県内ではすでに山武市と南房総市が海岸管理条例を制定し、有料駐車場を整備するなどの取り組みを行っています。一宮海岸は、首都圏からの交通の便が良いため、夏の海水浴客のみならず、一年を通じてサーフィン、釣り、地引網などたくさんの人でにぎわっています。

しかし駐車場やトイレが全く整備されていないため、車上狙いの増加や環境破壊など多くの問題が生じています。今後は、訪れた人誰もが海岸で快適に楽しめるように関係者の意見を十分にお聞きして、総合的な海岸観光計画を作成し、これに基づき町が主体となって駐車場の整備、トイレの設置、その他の対策を実施してまいります。

なぜ中洲は撤去できないのか

議会の一般質問で「一宮川の河川改修事業で宮原地先の中洲撤去が行われたが、中洲の外壁の壁が撤去されただけで、大きな中洲が残っているのはなぜか。」という質問がありました。そこで説明します。

中洲については、江戸時代からの共有地であり、相続人が700名を超えています。中洲を撤去するためには、これらすべての方から持ち分を取得する必要があります。相続人の中には、行方が分からない方や存在していない方もあります。これらすべての方の所在を確認し、接触することは極めて困難です。時間がかかれば、さらに相続が発生し、相続人が増加します。ちなみに現在相続人710名のうち県が持ち分を取得済みは509名です。

町では、再三にわたって中洲の撤去を県に要望しましたが、県は現段階でできることということで、少しでも川の流れをよくするために中洲に残る県所有の旧護岸の撤去工事を行ったものです。

現在千葉県は、土地収用法の認定が受けられるよう河川整備計画を作成中です。認定を受けると、千葉県が用地を簡潔に取得し、中洲を完全に撤去できるようになります。大水や津波の時に危険な中洲を一日も早く撤去できるようこれから県に対して強く要望してまいります。

社会福祉大会開催

5年に一度の一宮町社会福祉大会が社会福祉協議会主催で開催されます。今回の大会は、この4月にオープンした一宮町ボランティアセンターの記念事業として、各地区社会福祉協議会、日赤奉仕団、ボランティアなど各種団体との協働により開催されるものです。

美味しい模擬店、郷土芸能の披露、数々のアトラクション、楽しい企画が皆さまのご来場をお待ちしています。

10月13日（土） 10時半～2時

保健センター駐車場・保健センター・中央公民館

一宮海岸クリーンアップ

ウォーキング大会

一宮海岸の自然保護と再生にと株式会社大塚商会相談役名譽会長大塚実様よりいただいた寄付金をもとに「大塚実海と緑の基金」（基金総額1億円）を設立いたしました。この基金創設記念イベントとして美しい砂浜を歩いて心も体も健康にする一宮海岸クリーンアップウォーキング大会を開催します。あわせて国民宿舎跡地で新鮮野菜とカフェ・ご飯・手作り雑貨の「渚のファーマーズマーケット」を開催いたします。

10月21日（日）9時～ 一宮海岸

渚のファーマーズマーケット同時開催

※ウォーキング大会の参加申込の受付は終了しています。

津波避難訓練

本年度も町全域を対象とした津波避難訓練を実施します。昨年は平日に開催しましたが、本年度は家族と一緒に避難訓練に参加できるよう、日曜日に開催いたします。昨年全戸に配布された「一宮町緊急津波非難マップ」を囲んで家族で話し合っ、最寄りの津波避難所または津波一時（いつとき）避難場所に避難してください。

11月18日（日）8時45分～

避難場所Ⅱ津波避難所・津波一時避難場所

一宮町の歴史文化などを掘り下げた新しいガイドブックを制作した民間スタッフ



一宮町の新しい文化「4D」とは「Drive（駆り立てる）」「Dream（夢）」「Dramatic（ドラマチック）」「Do（目覚まし）」の4つの頭文字を取った...

一宮町の魅力ガイドブック 任意団体制作 一宮町の新しい文化「4D」とは「Drive（駆り立てる）」「Dream（夢）」「Dramatic（ドラマチック）」「Do（目覚まし）」の4つの頭文字を取った...

暴力団排除で協定

長生郡6町村と茂原署

長生郡内6町村長と茂原署長は、茂原市の長生郡市広域市町村圏組合会議室で「暴力団排除措置等を講ずるための連携に関する協定」を結んだ。

協定は、一宮町の玉川孫一郎町長や市原武陸沢町長、小高陽一長生村長、林和雄白子町長、成嶋尚武長柄町長、藤見昌弘長南町長、田丸孝夫茂原各町村長と田丸孝夫茂原署長との間で交わされた。

暴力団排除で協定書を交わす田丸署長(左)と玉川一宮町長(右)＝茂原市



森田知事にメロンを手渡す「一宮いっちゃん」(4日、県庁で)

一宮のメロン 知事に贈呈

寒暖差で例年より甘め

一宮町の玉川孫一郎町長と同時のメロン農家が4日、県庁を訪れ、森田知事に特産のマスクメロンを贈った。2010年の千葉県メロンの生産額は全国7位の26億円で、一宮町は県内の有数のマスクメロンの産地として知られる。今年はその年の寒暖差が大きかったため、例年より甘く仕上がった。

踊り、演奏に熱気 一宮まつり



東浪見基句を披露する東浪見小児童たち＝一宮町

「上総国一宮まつり」が、町役場近くの県道一宮停車場前を会場に開かれた。開会式に続き、照りつり、太陽の下で東浪見小全校児童115人による東浪見基句の踊り、一輪車パレード、一宮小の軽快な演奏をほらめ、一宮商業高と一宮中合同による吹奏楽部が「情熱大陸」などを披露した。さらになぎさ太鼓、鼓隊会など太鼓連打団体やフラダンスのアートフラクションが、まつりを盛り上げた。夕方、本番の「上総おどり」コンテストが開幕。地元一宮町をはじめ睦沢町、大網白里町、長生村から29団体千人が参加。子どもからお年寄りまでが2時間余にわたり踊りを楽しんだ。上位入賞団体は次の通り。

- ①寿楽会(一宮町) ②プリモイバレエスタジオ(同) ③咲華会(長生村) ④一宮商業高校 ⑤日赤一宮分区分会 ⑥一佳会(大網白里町) ⑦MPL ANET、輝輝連、うらら(以上一宮町) ⑧ジュニアリーダーズクラブTEAM(二宮町)

一宮で防災研修会



ボランティアの活動の様子を説明する須田さん(31日、一宮町で)

宝探し、ビーチフラッグ白熱

一宮海水浴場が海開き



海開きで、宝探しを楽しむ子どもたち＝一宮町の一宮海水浴場

一宮町の二宮海水浴場で、海開きイベントが行われ、夏本番を迎えた。これまで、海開きは安全を祈願する神事だけだったが、今年は小学4年生以下を対象にした「宝探し」や、小学5、6年生からは観光地引き納も行われ、より「ビーチフラッグ大」

1日の防災の日を前に、一宮町社会福祉協議会などが主催する防災研修会が31日開かれ、昨年の東日本大震災で津波の被害を受けた山武市の社会福祉協議会職員須田高さんが講演した。須田さんは、山武市連沼の海岸に津波が押し寄せた動画などをスクリーンに映して説明。避難所の写真なども見せて「震災直後は被災に関する情報が市でも分からず、状況把握が大幅に遅れた。情報は自分たちの足で稼ぐべきだった」と反省点を語った。また、ボランティアセンターの開設が発生6日後だったことも触れ、「市や市民、ボランティア団体、社協が連絡を密にしていればもっと早く設置できた。普段から関係を築いておくことが大事だ」と訴えた。